

# ||||| 広報誌 100号の歩み |||||

たかが100号、  
されど100号

単に100号と言っても、広報マンにとっては、長い道のりです。

広報誌を作るためには、取材が命。取材相手の話しをよく聞いて、自分で納得・理解しなければ、文章にすることはできません。

写真にしても同様です。自分では「良い」写真と思っても、見る人が変わると意外とそうでもないものです。

毎月発行（発行日は第2金曜日）するため、締め切りに追われ、時には夜遅くまで残って記事を書くこともしばしば。

このように苦勞の絶えない広報マンですが、無事に広報が出来るようになったときの喜びはひとしおです。

そんな広報マンも合併してから3代目。過去の広報誌で先輩がたが歩んできた道を、新「長島町」が刻んできた歴史を振り返ってみましょう。



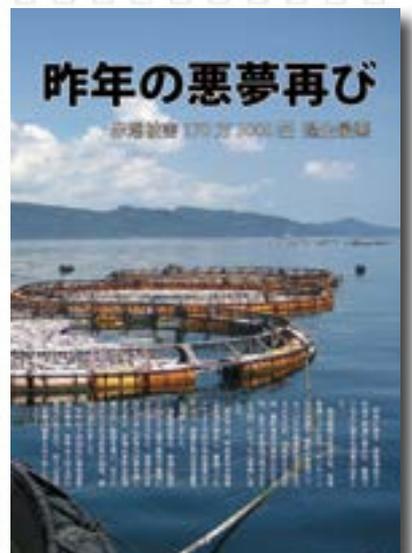
No. 1 創刊号 平成18年4月  
合併後初の広報誌。町旗を囲むのはまこと保育園の園児。



No. 13 平成19年4月  
町内唯一の『長高』が閉校。閉校式にはOBなど多数参加。



No. 48 平成22年3月 (p16)  
長島の玄関口に、道の駅黒之瀬戸だんだん市場がオープン。



No. 53 平成22年8月 (p2)  
前年に続き、赤潮が大発生。養殖業者には大打撃が。



No. 76 平成24年7月 (p2)  
2日間にわたり降り続いた雨は、あちこちにつめ跡を残した。



No. 92 平成25年11月  
第15回ながしま造形美術展に過去最多の13万人が来場。

36

36

36

36